



アクション・アラート  
パレスチナ YWCA  
(2006年11月10日)

11月8日早朝5:30、パレスチナの人々は、ガザ北部の Beit-Hanoun での虐殺のニュースに衝撃を受けました。子ども8人と女性7人を含む18人の市民が殺され、そのうち16人はアタムネ家の人でした。また、少なくとも40人が負傷しました。報道によれば、イスラエル軍が発射した12発の砲撃が、住宅街にある少なくとも4軒のアタムネ家やその親戚の家に着弾したということです。イスラエル軍が「作戦の完了」と Beit-Hanoun を含むガザ地区北部からの撤退を宣言した翌日の出来事でした。この週だけで80人のパレスチナ人が犠牲になり、350人以上が負傷しました。

目撃者は血痕や、散らばった子どもの靴など Beit-Hanoun に生きていた痕跡が残る恐ろしい光景を目の当たりにしています。他にも、頭のない遺体や手や脚のない子どもの遺体、ベッドに横たわる夫・妻・子どもの遺体を目撃した人もいます。

住民によれば、11月8日の砲撃の1週間前からイスラエル軍が占領しはじめた5万人の町で、多くの世帯が水を使うことのできない生活を強いられているといわれています。1000人以上が家を失い、食糧や飲料水を求めて町の病院につめかけています。土地は接収され、住民は電気も医療もない生活を強いられています。

イスラエル軍は8日の砲撃はパレスチナのロケット弾発射地点を攻撃するためだったと主張しています。イスラエル軍は、ガザ地区付近のイスラエルの町へのロケット弾による攻撃を阻止するために Beit-Hanoun を1週間にわたって占拠したことを説明し、部隊が武器や連行された兵士を発見したと伝えています。そのようなことは、多数の罪のない子どもや女性を殺した理由にはなりません。

2006年6月にパレスチナの武装勢力がイスラエル兵を拉致したことをきっかけに、140万人が暮らすガザ地区へのイスラエル軍による攻撃は激しさを増しました。2006年の8月20日のイスラエル軍の「撤退」以降、684人のパレスチナ人が殺され、4000人以上が負傷しています。

パレスチナ YWCA は、8日の Beit-Hanoun での虐殺に強く抗議し、世界中の YWCA と世界 YWCA に次のことを求めます。

1. 国連安全保障理事会に、8日の Beit-Hanoun での虐殺に介入し、即時に調査を行うことを要求すること。
2. 国際社会とそれぞれの国の政府に、パレスチナ人自治区での罪のない市民に対する攻撃および生活基盤や農地の破壊をやめさせるよう働きかけること。
3. イスラエル政府に、集団無差別処罰、集団虐殺、終わりのない虐殺行為をやめ、国際法とジュネーブ条約を遵守するよう働きかけること。
4. 不当にイスラエルの拘留所に拘留されているパレスチナ人、特に女性と子どもを解放するようイスラエル政府に圧力をかけること。
5. 違法に拉致され拘留されている、民主的に選ばれたパレスチナの大統領やパレスチナの立法評議会(PLC)のリーダーをすぐに解放するよう働きかけること。
6. イスラエルとパレスチナの政府が公正で持続可能な平和を実現できるようにすべての人に働きかけ、圧力をかけること。
7. パレスチナ YWCA/東エルサレム YMCA ジョイント・アドボカシー・イニシアティブ(JAI)と結束して、「パレスチナ人民連帯国際デー」(11月29日)に、世界中のすべての YWCA が、特別イベントを実施することを呼びかけます。